

平成29年1月30日(月)

13:30~16:40

文京区立第十中学校

1 出席者

計25名

2 研究授業

研究授業 13:30~14:20

内容:「ニホンジカと自然の関わりから環境保全の意義とその重要性について考える」

授業者:文京区立第十中学校 教諭 佐藤 友里子

授業内容について

前時に学習した「多様な生物が生息できる環境が豊かな環境である」ことを振り返らせた上で、日本で起きているシカ害の様子を映像で見て問題点を挙げさせた。シカによって植物が食べつくされた林床の様子や農産物の被害の様子を映像で見せた。

その上で、「シカと共存するために、どのような対策が必要かを考えよう」と発問して、個人で考えさせた上で、班を作らせ各班で環境保全のあり方を話し合わせた。班で考えさせた後、各班で出した意見を発表させた。

最後に教員が、神奈川県丹沢で取られているシカ対策について取り上げ、適切な個体数を保つことが環境保全につながることを説明した。

3 研究協議会

環境教育委員長あいさつ並びに今年度の研究についての紹介、授業者自評・研究協議を行いました。

研究協議では、日本の野生動物を教材にした研究授業で大変おもしろかった。

日本の自然環境や野生動物を使った教材開発は大変良い試みだと思った。教科書にはこのような事例がなく、教員がこの教材を使えるようにHPにのせるなどしてほしい等の意見がありました。

4 講演会

内容「ニホンジカ、ツキノワグマの生態と日本に自然環境について」

講師 東京農工大学農学部 地域生態システム学科 小池 伸介 先生

講演の内容(抜粋)

- ・ニホンジカ、ニホンカモシカについての生態の説明
- ・ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、クマの分布調査の説明
- ・日本で爆発的に増加するシカ、丹沢でのシカ問題その対策についての説明
- ・シカの増加による植生への影響
- ・ツキノワグマの生態についての説明
- ・ツキノワグマの分布地域が増加している
- ・ツキノワグマはブナやミズナラなどの森林に生息している
- ・ツキノワグマが季節によって食べているものについて、春は前年の堅果、夏はサクラ類やアリ類やハチ景、秋はドングリやヤマブドウなどの果実
- ・堅果の結実状況とクマの行動の関係、凶作年、クマは広い範囲で移動してエサを探す
- ・鳥やクマ、サル、タヌキ、テンなどがどのくらい果実をもち去るのか
- ・いろいろな動物が果実の種子をどのくらい遠くまで運ぶのか
- ・ツキノワグマは動物の中では5kmと大変遠くまで種子を運んでいる
- ・種子の発芽には、ネズミやフン虫などが大きな役割を果たしている

